

3 研究のまとめ

本研究を振り返り、成果と 2 年次に向けた課題をまとめました。

(1) 成果

- 新学習指導要領と現行学習指導要領を比較対照したり、様々な文献調査を行ったりする中で、小学校国語科で育成を目指すべき資質・能力について、明確化することができました。
- 資質・能力の育成を目指して「主体的・対話的で深い学び」の視点で日々の授業を見直す際、具体的にどのような点に留意すべきかを、検証授業やビデオ録画した授業を基に検討し、「授業改善ステップ表」を作成しました。また、改善を施す際の手立てについても検討し、「授業改善ステップ表」に対応した「手立て一覧表」を作成しました。

(2) 課題

- 「授業改善ステップ表」及び「手立て一覧表」の項目や内容は、今年度、研究委員会において随時、加除修正を行う中での、2 月時点での最新版です。本研究は 2 年次研究の初年度に当たるため、2 年次は、更に検証授業を重ねながら、それぞれの表をより汎用性のあるものに高めていきたいと考えます。
- 今年度の研究では、検証授業の中で、児童が「言葉による見方・考え方」をどのように働かせたかの実際を示すことができていません。これは、「授業改善ステップ表」観点 B の設定の根拠に当たる新学習指導要領解説第 4 章 1 「児童が考える場面と教師が考える場面をどのように組み立てるか」に関わると考えられます。このことを踏まえ、2 年次は、「言葉による見方・考え方」の具体について明らかにしていきたいと考えます。
- 「指導事項」「思考操作」「言語事項」を明確にした学習課題の設定は、「授業改善ステップ表」観点 A～D と深く関わることが分かりました。2 年次は、これらの関連性について明らかにしていきたいと考えます。
- 今後、資質・能力に基づいた評価の在り方について、文部科学省から考えが示される見込みです。それを受けた上で、国語科の授業における具体的な評価方法についても研究を進める必要があります。